

令和5年度 猪名川町立中学校 学習到達度調査の結果について

■ 調査目的

- 猪名川町内の中学校生徒の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

■ 調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

■ 調査対象

- 猪名川町内の公立中学校2年生の生徒 255名
- 調査対象教科は、国語・数学・英語

■ 調査日

2023年4月18日（火）

■ 調査結果

【中学校の調査結果】

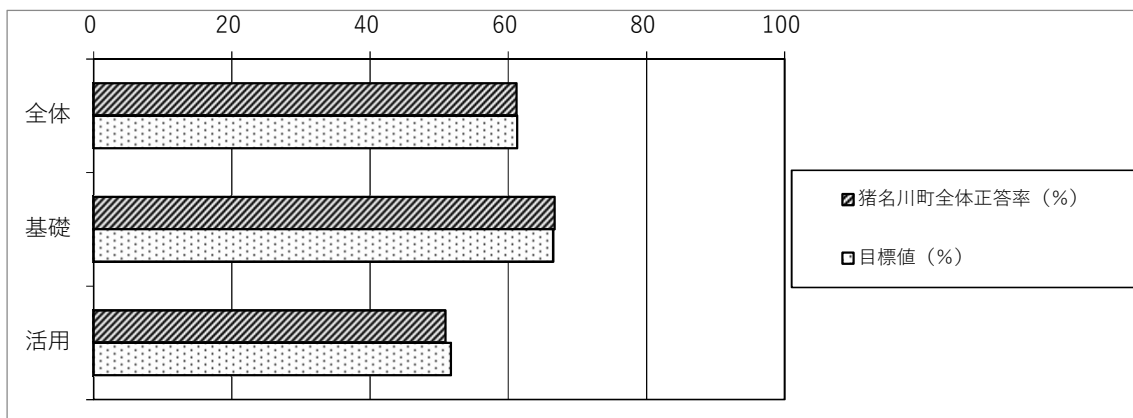
		猪名川町全体 正答率 (%)	目標値 (%)	目標値との差	全国平均 正答率 (%)	全国との差
中学校・ 2年生	国語	61.2	61.3	▲0.1	63.9	▲2.7
	数学	51.9	55.0	▲3.1	53.4	▲1.5
	英語A	49.2	50.3	▲1.1	46.1	3.1

※「目標値とは、学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した生徒の割合。出題の形式や解答の形式により、難易度を算出する。

町全体の正答率は、国語において全国平均を2.7ポイント、数学において1.5ポイント下回っているが、英語においては3.1ポイント上回っている。

■中学校2年生 国語
 (1) 基礎・活用正答率

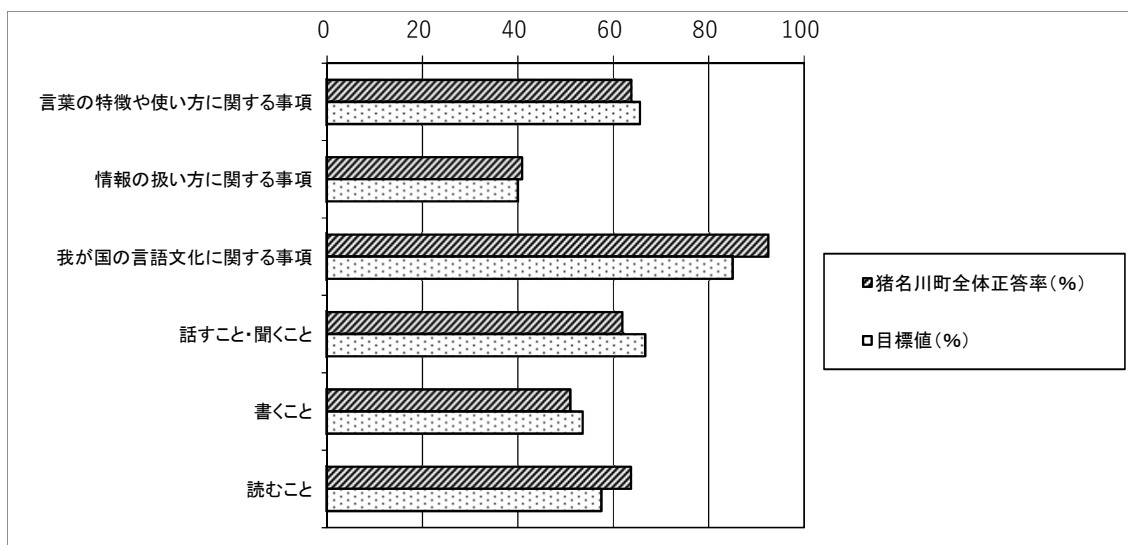
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	61.2	66.7	50.9
目標値 (%)	61.3	66.5	51.7
目標値との差	▲ 0.1	0.2	▲ 0.8



●基礎・活用別に見ると、基礎問題は66.7%と目標値を0.2ポイント上回っている。
 活用問題については、50.9%と目標値を0.8ポイント下回っている。

(2) 領域別正答率

	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
猪名川町全体正答率 (%)	63.8	40.9	92.5	61.9	51.0	63.7
目標値 (%)	65.6	40.0	85.0	66.7	53.6	57.5
目標値との差	▲ 1.8	0.9	7.5	▲ 4.8	▲ 2.6	6.2

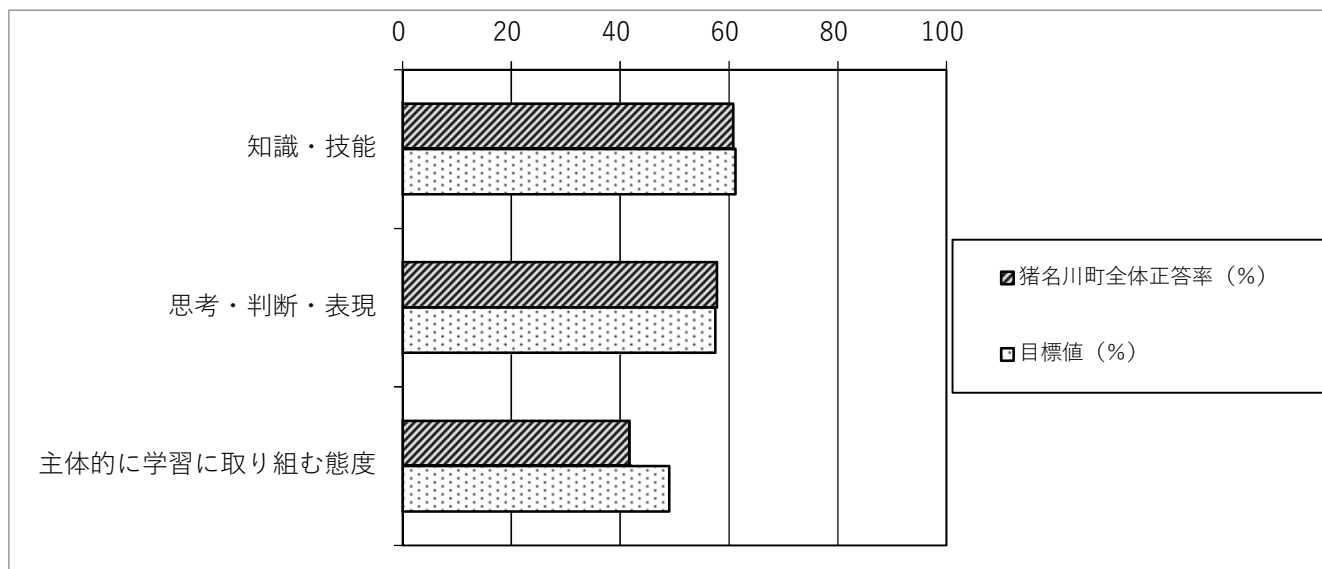


●領域別に見ると「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は目標値を下回っているが、それ以外の項目は目標値を上回り「我が国の言語文化に関する事項」は7.5ポイント、「読むこと」は6.2ポイント上回り良好である。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(3) 観点別正答率

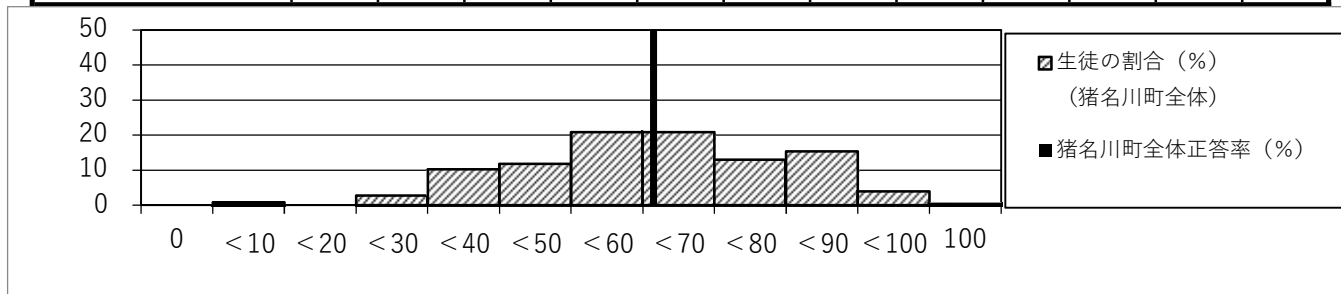
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
猪名川町全体正答率 (%)	60.8	57.8	41.7
目標値 (%)	61.2	57.5	49.0
目標値との差	▲ 0.4	0.3	▲ 7.3



●観点別に見ると「思考・判断・表現」で目標値を0.3ポイント上回っているが、「知識・技能」は0.4ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は目標値より7.3ポイント下回っている。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.8	0.0	2.8	10.2	11.8	20.9	20.9	13.0	15.4	3.9	0.4



●町全体で正答率80%以上の生徒が19.7%と令和4年度の31.7%から減少し、正答率50%未満の生徒は25.6%と令和4年度の24.1%より増加している。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(5) 課題のある小問についての分析

大問2(2)③

【漢字を書く】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	22.4	45.0	▲ 22.6	30.7	▲ 8.3
出題のねらい	小学校で学習した漢字を正しく書いている。				
対策	漢字の学習については、新出漢字を押さえていくだけでも大変であるが、特に大切なことは、身に付けた漢字の知識を活用できるような場を設定していくことである。小テストを行うだけでなく、生徒どうしが問題を作って出し合うといったように、クイズ形式で学ぶ機会を設けるなど、さまざまな指導の工夫を行っていききたい。				

大問3(3)

【文法・語句に関する事項】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	21.3	40.0	▲ 18.7	18.4	2.9
出題のねらい	文節の関係について理解している。				
対策	文節どうしの関係について理解しているかを見る問題である。文節については、第1学年で学習する内容であることもあり、第2学年の時点で文節や単語などについての知識を忘れていた生徒も多い。文法の場合、学習した時点で理解していても、その知識を活用する場面がないと、なかなか定着しない。読むことや書くことの学習の中で、こうした知識を意識的に使う場面を設定していくことが大切である。				

大問5(2)

【文学的な文章の内容を読み取る】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	54.3	55.0	▲ 0.7	55.0	▲ 0.7
出題のねらい	表現の効果について、根拠を明確にして考えている。				
対策	表現の効果について考えるとき、表現そのものに着目するだけでなく、作品の流れの中での登場人物の言動について押さえていく必要がある。本問の文章は、「駆」と「宙見」の会話を中心に進んでいく。会話によって揺れ動く「駆」の心の中の言葉について押さえることを通して、表現の効果について考えさせたい。授業の中で表現の効果について取り上げる際には、特徴的な表現を対象とすることが多い。その場合であっても、表現が作品全体と関わっているということを踏まえた発問を工夫していくとよい。				

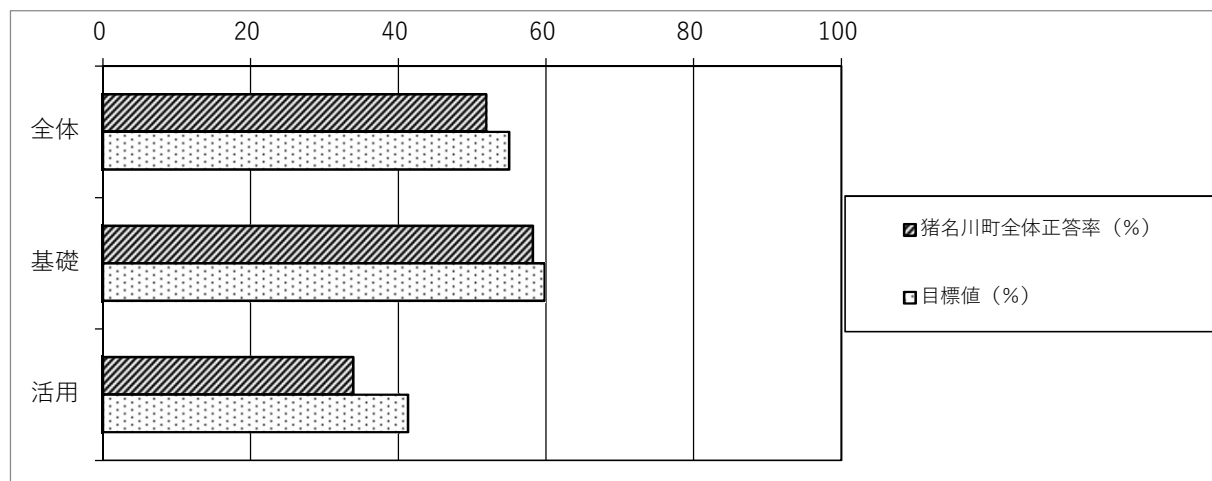
大問7

【文章を書く】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	39.4	50.0	▲ 10.6	54.2	▲ 14.8
出題のねらい	読み取った内容を明確にして書いている。				
対策	第一段落には、「AとBのポスターの特徴」をそれぞれ書く。本問で大切なことは、文章全体を一つのまとまりとして、適切な論の展開ができるかということである。すなわち、第二段落で「AとBのどちらのポスターを掲示するとよいと思うか、自分の考えと、その理由」を書かなければならないことを踏まえて、書き出す前に、第二段落の内容につながるような特徴を挙げておく必要があることに気付かせたい。				

■中学校2年生 数学
 (1) 基礎・活用正答率

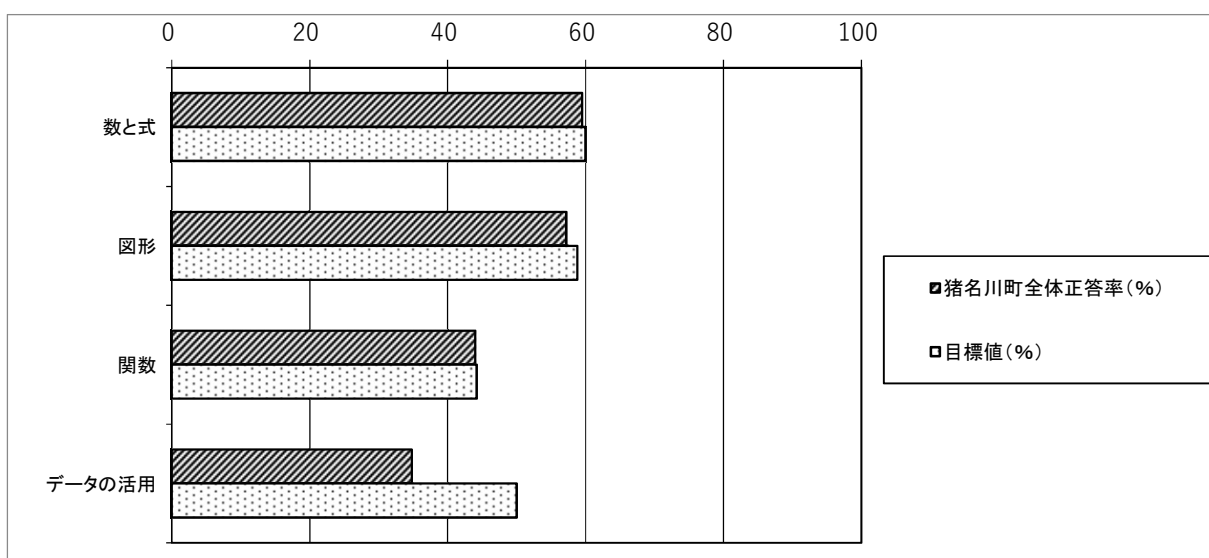
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	51.9	58.2	33.9
目標値 (%)	55.0	59.8	41.3
目標値との差	▲ 3.1	▲ 1.6	▲ 7.4



●基礎・活用別に見ると、目標値を基礎問題は1.6ポイント、活用問題は7.4ポイント下回っている。

(2) 領域別正答率

	数と式	図形	関数	データの活用
猪名川町全体正答率 (%)	59.5	57.2	44.0	34.8
目標値 (%)	60.0	58.8	44.2	50.0
目標値との差	▲ 0.5	▲ 1.6	▲ 0.2	▲ 15.2

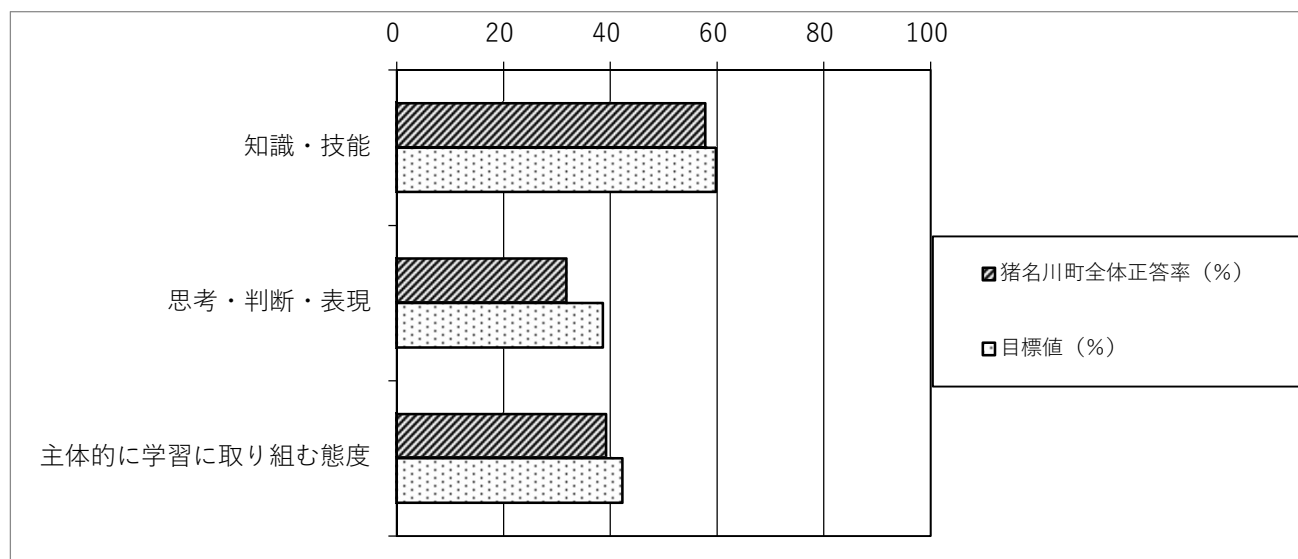


●領域別に見ると全ての項目で目標値を下回っているが、とくに「データの活用」は目標値を15.2ポイントと大きく下回り課題である。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(3) 観点別正答率

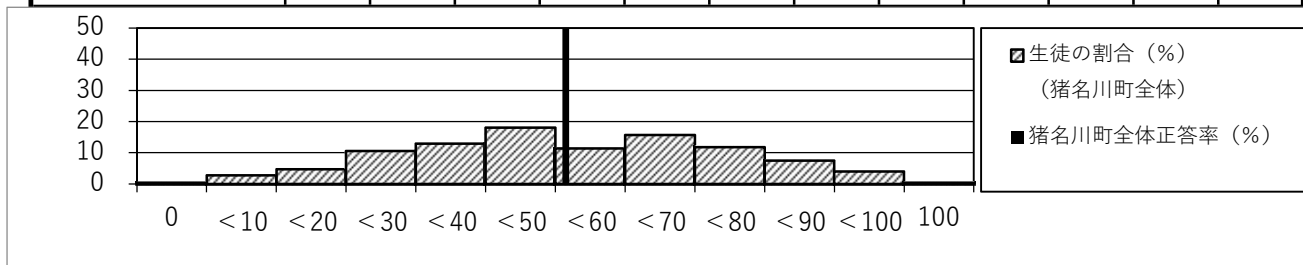
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
猪名川町全体正答率 (%)	57.8	31.8	39.2
目標値 (%)	59.8	38.6	42.3
目標値との差	▲ 2.0	▲ 6.8	▲ 3.1



●観点別に見ると、目標値より「知識・技能」は2.0ポイント、「思考・判断・表現」は6.8ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は3.1ポイントとすべての項目で下回っており課題である。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.4	2.7	4.7	10.6	12.9	18.0	11.4	15.7	11.8	7.5	3.9	0.4



●町全体で正答率80%以上の生徒が11.8%と令和4年度の15.9%より減少し、正答率50%未満の生徒も49.4%と令和4年度の40.0%より増加している。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(5) 課題のある小問についての分析

大問1

【正の数・負の数】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	36.9	50.0	▲ 13.1	42.4	▲ 5.5
出題のねらい	絶対値と数の大小について理解している。				
対策	絶対値が3以下の整数のうち、最も小さい整数を答える問題である。数直線を用いて絶対値の意味を理解させるとともに、同じ絶対値に対し正負2つの数があること、0の絶対値は0であることを確認しておく必要がある。また、絶対値が3以下の整数を全て書かせたり、正の数は絶対値が大きいほど大きい、負の数はどうかを考えさせたりして、絶対値の理解を深めさせるとよい。				

大問7

【比例・反比例】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	18.8	25.0	▲ 6.2	18.8	0.0
出題のねらい	関数について理解している。				
対策	誤答の主な原因としては、関数の意味を理解していないことなどが考えられる。伴って変化する2つの量 x , y があって、 x の値を決めると、それに伴って y の値も1つに決まるとき、 y は x の関数であるということを確認させる。その上で、具体的な事象について、関数であるかどうかを考えさせるとよい。1つに決まる、決まらないだけを答えさせると、当てずっぽうで答える生徒もいるので、それぞれについて、1つに決まる理由、決まらない理由についても答えさせるようにすることが大切である。				

大問15(1)

【空間図形】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	30.2	40.0	▲ 9.8	41.4	▲ 11.2
出題のねらい	円錐の側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求めることができる。				
対策	誤答の原因としては、おうぎ形の弧の長さは中心角の大きさに比例していることや、弧の長さを求める式を忘れていないことなどが考えられる。半径を r 、中心角 a° のおうぎ形の弧の長さを l とすると、 $l = 2\pi r \times a / 360$ と表せること、円錐の側面になるおうぎ形の弧の長さは底面の円周に等しいことを確認し、 $2\pi r \times a / 360 = 2\pi \times (\text{底面の半径})$ を導いて、中心角を求める方法について確認させる。また、別解として、おうぎ形の中心角を比例式にして求める方法 $l : 2\pi r = a : 360$ などについても触れると、より理解が深まる。				

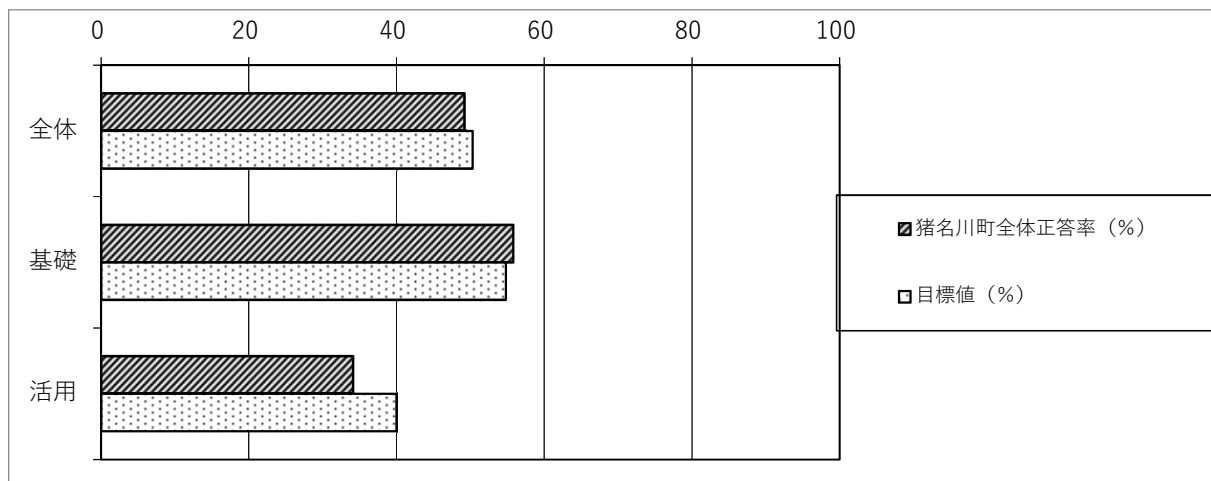
大問18(3)

【データの分布の傾向】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	12.9	40.0	▲ 27.1	31.7	▲ 18.8
出題のねらい	ある傾向が強いと思われる一方を選び、その理由を2つの相対度数の度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明することができる。				
対策	誤答の主な原因としては、度数折れ線の特徴を読み取ることができないこと、度数折れ線の特徴は分かるが、説明することに習熟していないことなどが考えられる。2つの度数折れ線は同じような山の形をしていることや、1組の度数折れ線の一番高い部分が、2組の度数折れ線の一番高い部分より左側にあることなど、2つの度数折れ線の特徴を正しく読み取って説明すればよいことを理解させたい。また、普段の指導の中に、生徒が説明する場面を少しでも多く取り入れ、説明に対する生徒の苦手意識を取り除くことが大切である。				

■中学校2年生 英語A
 (1) 基礎・活用正答率

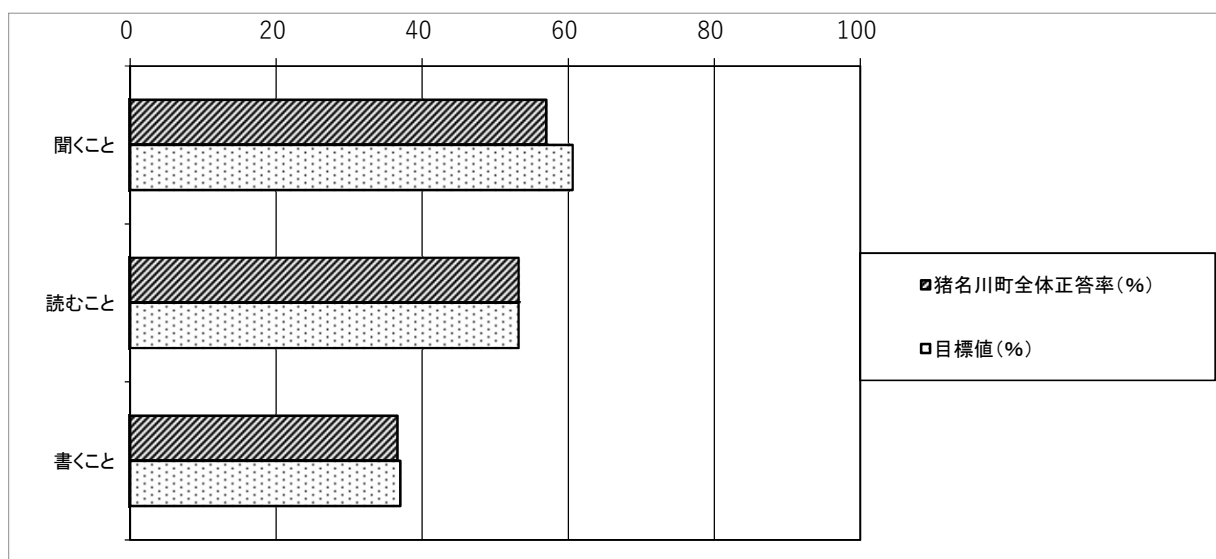
	全体	基礎	活用
猪名川町全体正答率 (%)	49.2	55.8	34.1
目標値 (%)	50.3	54.8	40.0
目標値との差	▲ 1.1	1.0	▲ 5.9



●基礎・活用別に見ると、基礎問題は55.8%と目標値を1.0ポイント上回っているが、活用問題は34.1%で目標値を5.9ポイント下回っている。

(2) 領域別正答率

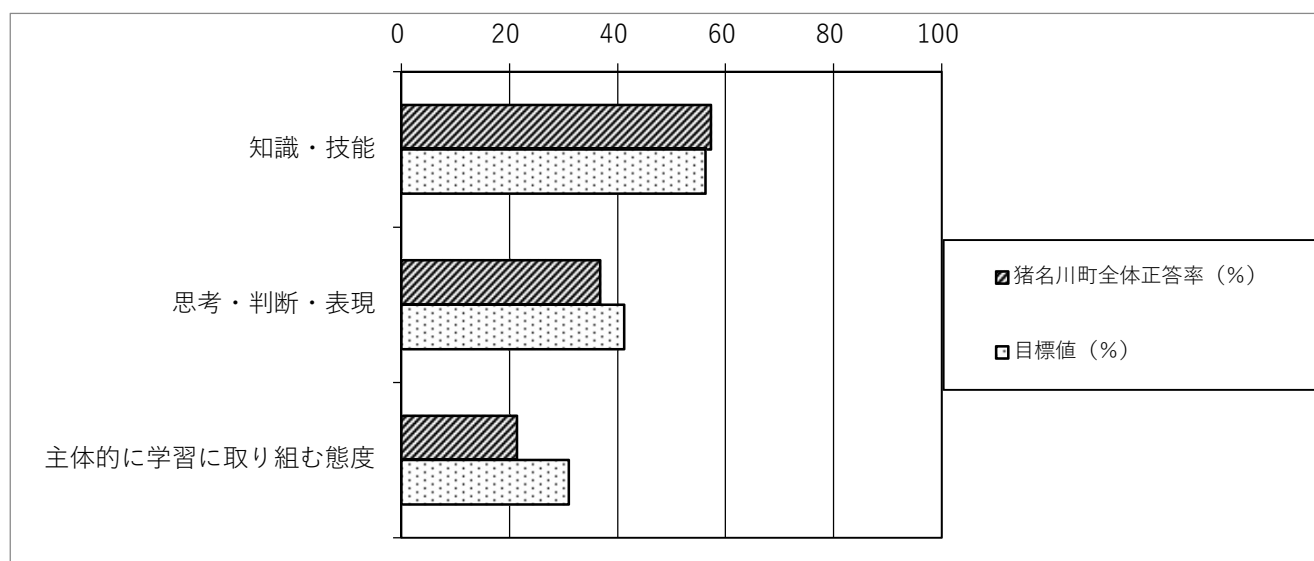
	聞くこと	読むこと	書くこと
猪名川町全体正答率 (%)	57.0	53.2	36.6
目標値 (%)	60.6	53.2	37.0
目標値との差	▲ 3.6	0.0	▲ 0.4



●領域別に見ると「聞くこと」が3.6ポイント、「書くこと」が0.4ポイント目標値を下回っている。
 ※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(3) 観点別正答率

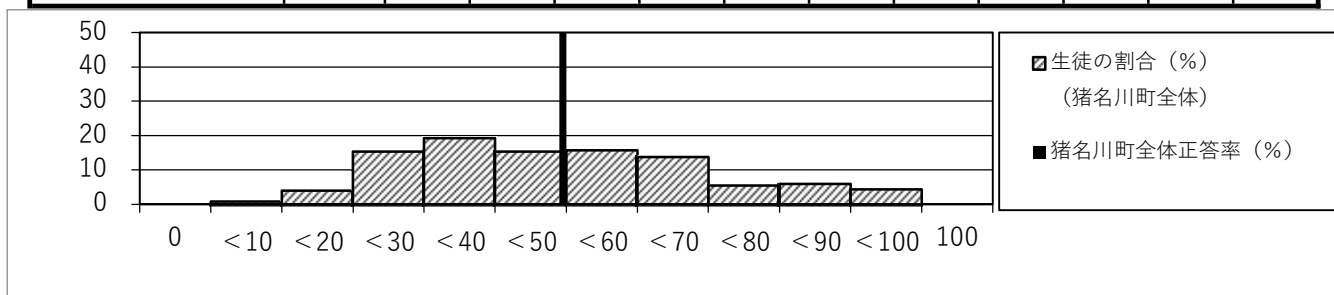
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
猪名川町全体正答率 (%)	57.3	36.8	21.4
目標値 (%)	56.3	41.2	31.0
目標値との差	1.0	▲ 4.4	▲ 9.6



●観点別に見ると「思考・判断・表現」は4.4ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」は目標値を9.6ポイント下回り課題である。

(4) 正答率度数分布

正答率 (%)	0	<10	<20	<30	<40	<50	<60	<70	<80	<90	<100	100
生徒の割合 (%) (猪名川町全体)	0.0	0.8	3.9	15.4	19.3	15.4	15.7	13.8	5.5	5.9	4.3	0.0



●町全体で正答率80%以上の生徒が10.2%と令和4年度の12.8%より減少し、正答率50%未満の生徒は54.7%と令和4年度の44.5%より増加している。

※この数値は小数点以下での誤差が生じる場合があります。

(5) 課題のある小問についての分析

大問5

【リスニング（対話文の応答）】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	11.0	30.0	▲ 19.0	10.0	1.0
出題のねらい	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で答えている。				
対策	リスニングとライティングの融合(活用)問題である。本問では、ジムが何を尋ねているのか、最後の文を確実に聞き取る必要がある。授業初めのsmall talkなどで、疑問詞疑問文を扱うなどして、その定着を図ることが大切である。また、教科書の題材にディベート的なものや、意見文などがある場合、それに対して自分ならどう答えるのか、その内容を書かせる活動を日頃から行うことにより、英語を書く力を身に付けさせるとよい。その際、教師が添削するのであれば、個々の生徒の英語力に応じて、ある程度時間を取って行うことが望ましい。				

大問6(1)①

【語形・語法の知識・理解】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	23.2	30.0	▲ 6.8	23.1	0.1
出題のねらい	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(一般動詞の過去の否定文)				
対策	日頃「be動詞の疑問文にはbe動詞で答える」という指導を受けていることから、Were you～?という疑問文に対して、wasn'tを選択してしまう可能性がある。本問の場合、問題をよく読んで、①Aの質問にはyesterdayが含まれているので、過去のことについて尋ねていること、②Bの答えには一般動詞のgoが含まれていることから、文法的にdidn't以外の選択肢は当てはまらないことに気付く必要があることを指導したい。				

大問8(4)

【長文の読み取り】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	18.9	30.0	▲ 11.1	10.8	8.1
出題のねらい	メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている。				
対策	本問のような問題に対応する力を習得させるためには、授業において、教科書の手紙文を扱うときに、手紙の書き手への返事を書かせる、教科書の本文内容に対する自分の意見を書かせるなどのライティング活動を行わせることが考えられる。その際、生徒の書いた文章について、文法事項やスペリングを指導するだけでなく、気持ちを込めた手紙であるか、説得力のある理由を簡潔にまとめられているか、といった観点からも確認していくことが大切である。				

大問10(2)

【場面に応じて書く英作文】

	猪名川町全体正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差
正答率 (%)	20.5	30.0	▲ 9.5	14.0	6.5
出題のねらい	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(whenを使っていつ行ったかをたずねる)				
対策	空欄の前のNancyとMahoのやり取りや、空欄の直後にある“Last weekend.”の一文から推測して、「(そのレストランに)いつ行ったのか」を尋ねるためにwhenという疑問詞を使うことに気付くこと、疑問詞whenの後ろは疑問文の形となることを文法的に把握していることなどが重要である。また、対話文では、対話全体の流れをつかむことが大切である。授業においては、オリジナルのスキットを作らせることで対話の流れを考えさせたり、教科書にある対話文の一部を空欄にして、そこに入る内容を想像させたりするとよい。				